

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 人文社会科学部、人文社会科学研究科	3
2. 教育学部、教育学研究科	6
3. 情報学部	8
4. 理学部	10
5. 工学部	12
6. 農学部	15
7. 総合科学技術研究科	17
8. 光医工学研究科	20
9. 創造科学技術研究部	23
10. 電子工学研究所	25
11. グリーン科学技術研究所	28

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
人文社会科学部、人文社会科学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育学部、教育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
情報学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
理学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
工学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
農学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
総合科学技術研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
光医工学研究科	【3】	高い質にある	【3】	高い質にある
創造科学技術研究部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
電子工学研究所	【3】	高い質にある	【3】	高い質にある
グリーン科学技術研究所	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 人文社会科学部、人文社会科学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 5)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 社会学科の教員は、静岡県教職員組合立教育研究所と共同で、教職員の多忙・長時間労働問題について調査を行なった（平成 29 年度から平成 30 年度）。本調査は、数値を中心とした定量的な調査ではなく、調査項目を地区体育行事や家庭訪問等に絞り、改善・見直しのための学校現場での議論やその経過を、当事者である教職員から直接ヒアリングをするなど、質的調査に重点を置いたものである。この報告書（所報）は『学校における業務改善の見直し・改善のヒント集』と題して発行され（同研究所の HP からダウンロードも可能）、直後の平成 30 年度末に県下 14 単組のうち 6 単組で、調査に直接関わった所員が説明する形で学習会を行なった。この学習会については、参加者より「学校改革、業務の見直し、教育課程の改善等に役立つ研究資料となった」などの意見が同研究所に伝えられており、現場での議論を活性化する触媒としての役割を果たしている。
- 法学科の教員は、平成 25 年 4 月から毎月、静岡労働法研究会を組織・開催している。各回、静岡県下の社会保険労務士、弁護士、求人広告会社従業員、労働局職員、法学科教員の合計 10 名から 15 名が参加し、労働法に関する判例を中心とした実務的なテーマについて研究・議論を重ね、労働法分野における地域の法的関心事に取り組んでおり、平成 30 年 3 月に第 50 回の研究会を迎えた。
- 平成 29 年度に静岡市内において、東華大学外国語学院（中国）との学術交流シンポジウム「越境するヒト、モノ、言語 東アジアの事例からー日本、中国、韓国の社会的、文化的、経済的交流の歴史的背景と展望」を開催した。平成 29 年度に静岡市内において、シンガポール国立大学、開南大学（台湾）、タマサート大学（タイ）の研究者を招き、国際シンポジウム「アジアにおける日本学の現状」を開催した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、3件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

2. 教育学部、教育学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 7)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 7)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 28 年度から平成 30 年度に、高等教育機関・学校・社会教育施設・自治体行政・企業・地域組織・市民団体組織等と連携して「コンソーシアム」を形成し、ユネスコ活動補助金による「ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム事業（平成 28-平成 30）」に主幹大学として取り組んだ。3 年間の諸活動の延べ参加人数は 3 年間で 2,000 名を超えている。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、1 件、1 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

3. 情報学部

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 9)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 9)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、2件、2件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

4. 理学部

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 11)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 11)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 研究スペースには、学科に配分されるスペース以外に、理学部長が直接管理するものが設けられており、豊富な外部資金を持つ教員がプロジェクト研究を行う際や理学部として重点的に取り組む課題に取り組む教員には競争的にスペースを配分する施策が取られている。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、3件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

5. 工学部

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 13)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 14)

分析項目 I 研究活動の状況**〔判定〕 相応の質にある****〔判断理由〕**

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- レーザー光を用いた微小領域の計測と加工、超臨界流体や混層流体を用いた環境保全技術、新エネルギーの創成技術、プラズマを用いた医療・バイオ・環境応用技術、シミュレーションによる電子機器の最適化設計の開発の分野で平成 28 年度～令和元年度にかけて、世界・全国レベルの顕著な成果をあげ、その中の 1 件（化学バイオ学科、教員による「高効率メタン変換へのナノ相分離触媒の創成」）について Nature Catalysis 令和 2 年 2 月号の表紙を飾った（このことが、日刊工業新聞（令和 2 年 2 月 10 日付）そのほかに掲載された）。

〔特色ある点〕

- 「浜松共同利用機器センター」が工学部のある浜松キャンパスに設置されている。令和元年度より「分析マイスター」の認定制度を開始し、令和 2 年 3 月までに合計 36 名が認定された。また頻繁に分析セミナーを実施しており、利用している研究室は 79（内、工学部関係が 72、都合 91%）・ユニークユーザーは 453 名（内、工学部関係が 432 名、都合 95%）にもものぼっている。
- 寄附者である卒業生の名前を冠した「村川基金」を活用して、国際交流協定を結んでいる米国カリフォルニア工科大学を中心に若手教員を派遣（最長 1 年間、短期は 1 月間程度・派遣は募集の翌年）している。令和元年度までに、長期 4 名、短期 5 名の若手教員を派遣した。
- 静岡大学初の超小型衛星 STARS-C（愛称：はごろも）が平成 28 年 12 月 9 日に H-IIB ロケットにて打ち上げられ、国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」より放出された。以降、平成 30 年 9～10 月に、STARS-A0（愛称：あおい）、STARS-Me（愛称：てんりゅう）が打ち上げられ、現在、STARS-Me 2（愛称：未定）の開発を進めている。本件に関してプレスリリース、記者会見を積極的に行い、約 100 件の新聞報道がなされ、広く社会に情報発信を行った。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、5件、5件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

6. 農学部

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 16)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 16)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 農学部内に「研究戦略推進室」を設置し、（１）学術論文発表支援経費、（２）プロジェクト研究推進費を支援している。（１）については、英語にて発表された学術論文を対象に、インパクトファクターに準じて支援を行っており、平成 28 年度は 11 件（計 65 万円）、平成 29 年度は 9 件（計 55 万円）、令和元年度は 9 件（計 50 万円）を支援した。（２）については、農学部内においてプロジェクト研究を推進すべく部局内にて公募し、研究戦略推進室にて審査を行い、選定された課題に対して支援を行っているが、平成 28 年度は 2 件（計 80 万円）、平成 29 年度は 3 件（計 120 万円）を支援した。また平成 30 年度より若手教員向けに「研究活性化経費」の支援を行うことを決定し、実際に公募し、研究戦略推進室にて審査を行い、2 名（計 100 万円）、令和元年度は 4 名（計 100 万円）の支援を行った。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、2 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

7. 総合科学技術研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 18)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 19)

分析項目 I 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 固体地球科学分野、ケミカルバイオロジー分野、核融合学分野において、卓越した業績があがっている。研究業績説明書の業績番号 22「最上部マントルの結晶方位ファブリックの研究」は国際深海掘削計画や国際陸上掘削計画を強く推進する契機となり、関連した研究課題が理学部教員を研究代表者として日本学術振興会科学研究費補助金の基盤研究 (S) に平成 28 年から採択された。業績番号 21「シアノバクテリアにおける光応答戦略の解明とその応用利用」によって、平成 28 年に日本光生物学協会奨励賞を受賞し、著名な国際会議・Gordon Research Conference において、平成 30 年に二回招待講演を行なっている。業績番号 26「水素同位体透過低減被覆の研究」は核融合炉の実現に向けて最重要課題の一つであるトリチウムの透過漏洩を低減するための被覆技術に取り組んだものであり、40 歳以下の研究者に与えられる世界的に権威ある賞「Miyab-Abdou Award」をはじめとする 3 つの賞を受賞する他、国際会議における招待講演を 9 回行った。

〔特色ある点〕

- 学部横断大型プロジェクト研究「X プロジェクト」による若手研究者の分野横断型研究促進。発展例として「専門性に応じた協調学習マネジメント力の育成と評価手法の開発（平成 26 年度から 29 年度）」が科研費基盤 A プロジェクト「アクティブラーニングの形成的評価ツールの開発と検証（平成 28 年度から令和元年度）」に発展するなど、6 件の採択課題のうち 4 件が大型資金の獲得につながっており、研究促進活動として特筆すべき成果を上げている。
- 【農学専攻】平成 30 年度、学術系クラウドファンディングサービス「academist」を運営するアカデミスト株式会社と静岡大学で、寄附金獲得による研究推進を目的として、農学専攻教員の研究プロジェクト「母乳中の免疫成分量と乳児アレルギーとの関係を調べたい！」について業務提携契約を締結した。クラウドファンディングを実施した結果、目標金額を超える計 1,536,000 円（計 52 件）をご支援いただいた。また、本件にかかる成果は、日本食品免疫学会等にて発表を行う予定である。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、12件、7件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

8. 光医工学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 21)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 22)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

中間評価において、S評価やA評価を獲得した大型プロジェクトを推進し、研究成果を上げている。また、産学官金プロジェクトとして、地域イノベーション・エコシステム形成プログラムを実施し、低侵襲立体内視鏡等を開発している。

〔優れた点〕

○ 現在までに評価が公開されているものとして、「文部科学省 地域イノベーション・エコシステム形成プログラム（平成 28 年度から令和 2 年度）」では平成 30 年度中間評価において、総合評価「A」評価を獲得した。また、「文部科学省 「革新的イノベーション創出プログラム COI（Center of Innovations）STREAM」（平成 25 年度から令和 3 年度）」の平成 29 年度中間評価において「ビジョン実現に向けた取組（バックキャスト・研究開発成果・社会実装への取組等）及び持続的なイノベーション拠点の形成について特に優れた進捗があり、今後も優れた進展が期待できる。」として、総合評価「S」を獲得した。

〔特色ある点〕

○ 浜松市と共に、浜松地域イノベーション推進機構、浜松医科大学、光産業創成大学院大学、静岡理工科大学、地元民間企業、地元金融機関、静岡県を参画機関として、浜松地域の産学官金プロジェクトとして、平成 28 年度「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」に採択された。光医工学研究科の教員 5 名や浜松医大の教員も参加し、具体的には顕微鏡手術のようなマイクロ手術が可能な低侵襲立体内視鏡開発や高性能なイメージセンサを用いた周辺機器に係るプロジェクトを推進しており、光の先端都市である浜松市において、地域企業との連携を進め、持続的・連鎖的な光技術の具現化を推進している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、2件、2件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、高い質にあると判断した。

特に、「時間分解ピクセルイメージセンサ」は、学術的に卓越している研究業績であり、「超高精細イメージセンサ」は、社会・経済・文化的に卓越している研究業績である。

9. 創造科学技術研究部

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 24)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 24)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、7件、2件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

10. 電子工学研究所

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 26)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 27)

分析項目 I 研究活動の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

革新的イノベーション創出プログラムに選定された「精神的価値が成長する感性イノベーション拠点」に、サテライト拠点「時空を超えて光を自由に操り豊かな持続的社會を実現する光創起イノベーション研究拠点」として参加しており、平成 29 年度の間評価では総合評価 S を獲得している。

〔優れた点〕

- 平成 25 年の文部科学省「革新的イノベーション創出プログラム (COI STREAM)」に選定された「精神的価値が成長する感性イノベーション拠点」に、サテライト拠点「時空を超えて光を自由に操り豊かな持続的社會を実現する光創起イノベーション研究拠点」として参加している。平成 29 年度の間評価では、「ビジョン実現に向けた取組 (バックキャスティング・研究開発成果・社会実装への取組等) 及び持続的なイノベーション拠点の形成について特に優れた進捗があり、今後も優れた進展が期待できる。」として、総合評価「S」を獲得した。

〔特色ある点〕

- 研究所の目指す「光・画像科学分野」における国際研究拠点の形成のために、第 3 期中期目標期間中には 65 件の国際共同研究を遂行しており、イメージセンサ、発光・受光デバイス及び材料、微小電子源などの開発を行っている。共同研究相手国は、ヨーロッパ、アジア、北米の各地域を中心に 25 か国にわたっている。また、多くの大学・研究機関とシンポジウム・セミナーを開催し、学生間においても交流を深めている。
- X 線による三次元画像生成技術の展開として、静岡大学発ベンチャー企業を通じてエンターテイメント企業と協力し、バーチャル Youtuber (リアルタイム三次元アニメーション生成によるエンターテイメント) 向けに既存二次元キャラクターを三次元化した。モーションキャプチャ、リアルタイムアニメーション生成映像音声処理を総合して双方向トーキングエンターテイメントとしてリアルタイムステージで実演、またネット配信を行い実用化した (平成 29 年 2 月)。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、5件、2件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、高い質にあると判断した。

特に、「超高精細イメージセンサ」は、学術的にも社会・経済・文化的にも卓越している研究業績である。

11. グリーン科学技術研究所

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 29)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 29)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

○ グリーンエネルギー研究部門では、分散型メタンガス発電システムの実用化や高糖度トマトを安定的に生産する農業 AI の研究開発などで関連団体から高い評価を受け、コージェネ大賞 2017 優秀賞（民生用部門）、平成 30 年ドコモ・モバイル・サイエンス賞など数々の賞を受けた。

グリーンケミストリー研究部門では、フェアリー化合物の発見と生成及び作物収量増加作用の発見により平成 28 年日本農学賞（日本農学会）、平成 29 年日本きのこ学会賞、令和 2 年日本農芸化学会賞から学会賞を受賞した。

これら関連団体から高い評価を得るとともに社会に利益をもたらす研究成果を上げており、現在、研究成果の社会実装へ向けた研究を進めている。

○ 科学研究費補助金では、基盤研究 A が継続的に採択され、平成 29 年度からは新学術領域研究も採択されている。また、科学技術振興機構のさきがけ（平成 27 年度から 30 年度 さきがけ研究者）、CREST（平成 28 年度から令和 3 年度 分担、平成 27 年度から令和元年度 分担、令和元年度から 3 年度 分担）、研究成果最適展開支援プログラム（平成 26 年度から 29 年度 代表）など大型の競争的資金も獲得している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、3 件、1 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。